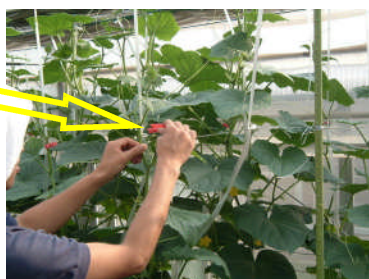
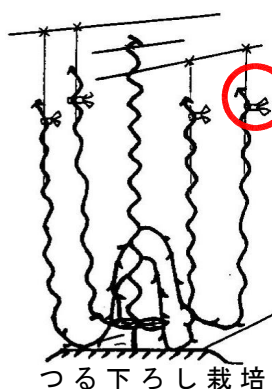


施設キュウリの省力・軽労化技術の開発

キュウリ栽培で大幅な省力・軽労化を図るための新技術を紹介します。
 つる下ろし栽培では、園芸研究所で開発した誘引器具を用いることにより、
 つる下ろし作業時間を4割削減できました。
 さらに、秋作から春作に切り替わる時に、前作のベッドをそのまま使う「連続うね利用栽培」や、春作から秋作に切り替わる時に、うね立て後土壌消毒を行う「改良太陽熱消毒法」により、定植準備や太陽熱消毒に要する作業時間を4割～6割削減できました。

- 1 つる下ろし誘引具による省力・軽労化
 10a当たり350時間かかっていた誘引時間が、200時間になり40%削減できました。



慣行のクリップによるつる下ろし作業



誘引具によるつる下ろし作業

- 2 連続うね利用栽培及び改良太陽熱消毒による省力・軽労化

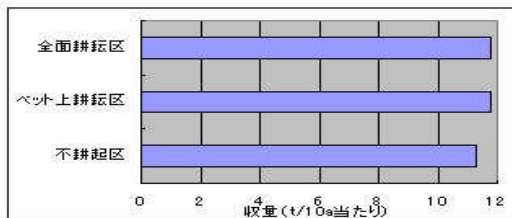
(1) 連続うね利用栽培は、越冬栽培後の半促成栽培で試験しました。

ベッド上耕うん区及び不耕起区ともに慣行区と同等の生育・収量でした。

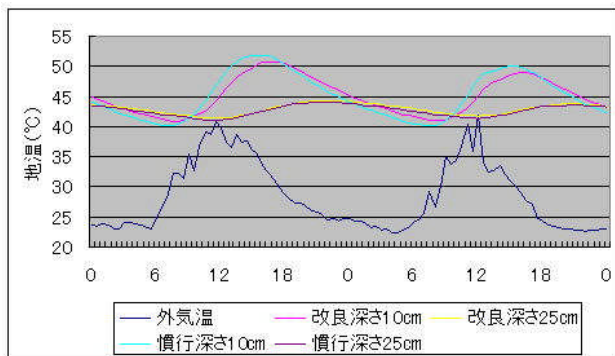
(2) 改良太陽熱消毒法は、半促成栽培後に試験しました。

温度上昇の速さや最高温度は、慣行太陽熱消毒法に比べやや劣りましたが、十分実用可能な技術でした。

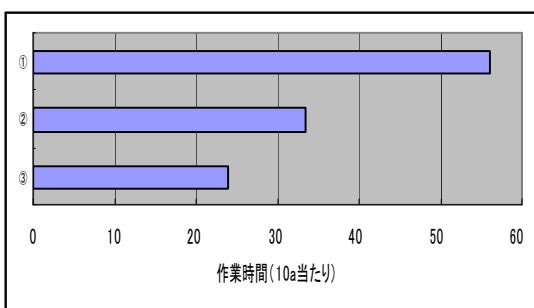
(3) 年間の省力効果は、①慣行区（慣行太陽熱消毒＋全面耕うん）に比べ、②改良太陽熱消毒＋ベッド上耕うん区が作業時間を40%削減でき、③改良太陽熱消毒＋不耕起区では作業時間を60%削減できました。



連続うね利用栽培による収量比較



土壌消毒方法別地温の経時変化



連続うねと改良太陽熱消毒による省力効果